鶴翔同窓会だより

荘内中学校　鶴岡中学校
鶴岡第一高等学校　鶴岡高等学校
鶴岡南高等学校

第63号
発行　鶴翔同窓会
〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26－31
山形県立鶴岡南高等学校内
電話(0235)22 0061
印刷　鶴岡印刷株式会社
2022年
令和4年11月10日発行

仮設校舎が建つ現在
撮影／三原一郎（昭43卒・75回）

新校名決定!!

山形県立 致道館 中学校 高等学校

新しい制服で登校
撮影／渡邊春信（昭51卒・83回）

校舎全景（平成5年）

同窓会会長挨拶

第七代会長　齋藤正志（昭44卒・76回）

鶴翔同窓会会員の皆様、一年間のご無沙汰でございます。皆様におかれましては、鶴翔同窓会並びに鶴岡南高校へのご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

この6月に発刊になった鶴翔同窓会「会員名簿」に対して、多数の皆様からの賛助広告や名簿購入をいただき、ありがとうございました。今回の名簿は、令和4年3月に閉課程になった通信制の最後の卒業生を含む内容と、令和6年4月から中高一貫校への移行が決まっておりますので、「鶴岡南高」並びに「鶴翔同窓会」の名称で発刊される最後の版となりました。ご協力に感謝申し上げます。

さて、今年は6月29日（会場の都合で7月1日ではなく）に創立134周年記念式典並びに記念講演が格調高く執り行われました。記念講演は「中国と向き合う」という演題で、京都大学教授・石川禎浩先生（昭57卒・89回）による中国共産党史を中心とした幅広い貴重な講演でありました。時節柄大変興味深く聞かせて頂きました。

昨今コロナ感染症は第7波に突入しておりますが、何とか早くコロナ禍が収束して、来年は創立135周年を盛大に祝える事をお祈り致します。

また、母校は、現在中高一貫校への移行にむけて、順調に準備が進められていると聞き及んでおりますが、たとえ新校に移行されても南高校の歴史と伝統は形を変えても脈々と引き継がれていってほしいと思うところです。

鶴翔同窓会においては、昨年同様理事会は書面会議、総会はホームページ上承認をいただく形にさせて頂いております。また北高同窓会との統合の打合せも会を重ねながら慎重に進めているところです。

最後に、鶴翔同窓会の会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り致しまして会長挨拶とさせて頂きます。

創立記念式典より

創立記念日 記念講演

中国と向き合う『中国共産党、その百年』余話

京都大学人文科学研究所教授
（同附属現代中国研究センター長）
石川禎浩（よしひろ）氏（昭57卒・89回）

卒業から四〇年、創立式典での講演の機会を頂き、大変に光栄に存じます。

三川町の農家の長男として生まれ、その後三川中学校から鶴南に進学したわたしは、中国に縁ある家系でもなく、中高の時からとりたてて中国に関心があったわけでもありません。講演では、そんなわたしが中国学、特に中国共産党の歴史に関心を持つようになり、その研究をする道を選ぶに至った経緯のあらましを紹介しました。きっかけは進学した京都大学の教養課程で、第二外国語として中国語を選択したことでした。深い考えもなく選択した中国語でしたが、たまたま最初の夏休みで帰省したおりに、郷里の集落に中国から農業視察団がやって来て、そこへ顔を出したところ、団の通訳の方の息子さんが京都の、それもわたしの下宿のすぐ近所に住まいしていることがわかり、それが縁でその息子さんに中国語会話を習うようになったのでした。会話が上達するにつれて中国への関心も増し、やがて中国留学、そして中国史を専攻して大学院に進学と、中国学への扉が次々に開いていったのでした。

自分が中国学研究の道を歩むことになる、つまり中国共産党の結成過程を研究して処女作を発表することになるとか、さまざまなゴシップネタを織り込んで毛沢東の初期イメージ研究をするようになるとか、そしてついには結党百周年に合わせて、共産党史の専門家としてそれを振り返る『中国共産党、その百年』を出版することになるなんていうことは、若い頃には夢想だにしないことでした。中国留学中の写真を見直すと、そんな自分の将来をまったく知らぬまま、党の関連史跡で無邪気

校長挨拶

第三十六代校長　遠田達浩

同窓会の皆様、日頃より鶴岡南高等学校の教育活動に御理解をいただき、また多大な御支援を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

歴史と伝統ある鶴岡南高等学校に勤務できることは、この上ない喜びであり、責任の重さに身の引き締まる思いです。皆様方の素晴らしい功績を汚さぬよう努力してまいる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度もコロナ禍の中、感染予防対策を行いながら教育活動を進め、南工定期戦（野球・サッカー共に勝利）や南高祭（体育祭）など開催することができ、生徒の生き生きとした姿が随所に見られました。また、創立１３４周年記念式典も荘銀タクトを会場とし、無事挙行でき、記念講演では京都大教授の石川禎浩さん（昭57卒・89回）から、「中国と向き合う『中国共産党、その百年』余話」と題して講演いただき、鶴南生時代の話も交えて分かり易くお話いただき、次代を生きる生徒たちに貴重な指標も頂戴いたしました。

今年3月の卒業生の進路状況は、東大、京大、一橋、東工大に各1名、東北大は5クラスになってから最多となる14名が合格しました。医学部医学科への進学も山形大学6名、弘前大学1名であり、国公立大学には合わせて１２４名の合格者となり、大いに頑張ってくれました。

部活動では、運動部はアーチェリー部男子団体と女子団体、卓球部女子シングルス2名、競泳の個人とリレーで四国インターハイ出場、文化部は科学部が全国高総文祭に出場、吹奏楽研究会と音楽部が東北大会出場など、相変わらず各部とも大いに活躍しています。

6年度開校の庄内中高一貫校（仮称）に関しては、新高校第一期卒業生となる生徒が新しい制服で入学し、学校周辺の登校風景が大きく変わりました。校舎改修に伴う仮設校舎の建設が8月に完了し、2学期から生徒はそこでの学びを始めています。

校名の検討については、ＨＰ・郵送による公募が6月に行われ、10月公表予定となっていますので、この同窓会だよりが発行された頃には明らかになっているものと思います。その後、校歌や校章の検討など、関心の高い事柄が具体的なものになってきます。

今後も、鶴岡南高校の更なる発展のために教職員一同頑張ってまいりますので、同窓生の皆様の益々の御支援を重ねてお願い申し上げますとともに、鶴翔同窓会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

に笑っている自分がいて、なんとも言えない気持ちになることがあります。三十年数後に、その同じ場所で研究者となった自分が記念写真を撮っていたりするからです。そんな写真を見ていると、中国研究という世界に入ることは、一見すると必然だったようでありながら、実は無数の小さな選択をおりおりにしてきた結果なのだということを思い知らされます。つまり、なにか大きな目標に向かって努力してきたようでありながら、微視的に見るとそれはあれこれと迷い、選択し、決断するということの積み重ねだったということです。そして、その選択肢の中で積極的な方向を選ぶことが、自分を当初の想定よりも遠い世界へと導いてくれたように思います。

わたしの場合は、中国語への取り組みにしても、その後の中国への留学にしても、中国に積極的に関わることで中国への関心が大きく膨らんでいったのですが、いま少し残念なのは、そうしてたどり着いた中国共産党史の研究がどんどん不自由になっていることです。党の歴史は、かれら自身が資料を独占的に管理していますから、中国に明らかにアドバンテージのある研究領域です。いわば卓球の中国ナショナルチームのようなもので、普通にやればわたしたち外国人側の完敗です。そんな領域なのに、中国共産党は国外の毛沢東研究や中共党史研究に神経をとがらせ、国内への持ち込みや販売を制限しています。党の歴史は政治の領域の事項なので、党員以外に勝手な口出しはさせないといわんばかりの状況が近年続いています。そんな時代だからこそ、その卓球の絶対王者に一泡吹かせるような研究をすること、つまり中国からも尊敬されるような研究をすること、迂遠ではあるけれども、それが結局は日本と中国の関係を良くしていく道ではないかと考えています。

中高一貫校計画の現在

庄内中高一貫校開校もあと1年余りとなりました。

令和4年8月現在の開校準備委員会の進捗状況等をお伝えします。

開校を2年後に控え、今までの準備組織であった開校整備委員会が、今年度から、より具体的な内容について検討する開校準備委員会に改組しました。その中の作業部会には今までどおり4つの班会があり、それぞれの計画に基づいて開校に向けた準備・検討を行っています。ここでは4つの班会の現在の進捗状況等について述べたいと思います。

教育計画班会

今年の大きな課題の一つが令和6年度入学生の教育計画書を作成することです。教育計画書とは、新たに学校が開校するときなど、計画的・効果的に教育を推進できるよう作成する計画書です。その作成のため理数科検討委員会を設置し、具体的な検討を進めています。現在、普通科・理数科それぞれのねらい（どのような生徒を育てるか）を検討し、そのねらいを達成するため、特色ある教育課程の編成にあたっています。それと平行して今後は、令和5年度入学生の大学推薦入試方針、令和9年度入学生の学級編成、中高一貫校として中高連携を図る学校研究の在り方等の検討を進めていく予定です。

施設設備班会

今年の4月より鶴南のグラウンドに建設が始まった仮設校舎が8月初旬に完成しました。夏休み期間中に引越を行い、二学期からは仮設校舎での生活が始まっています。一方、鶴南の本校舎は10月より改修・増築工事が行われ、令和6年の2月に完成する予定です。今後は、令和6年3月に予定している本校舎移設が円滑に実施されるよう検討を進めること、併設型中学校で実施される給食に関わる設備等について検討を進めることとしています。また、併設型高校で必要となる備品等についても準備を行っているところです。

仮設校舎内の様子

生徒保健班会

昨年度は庄内中高一貫校の制服を選定するという大きな命題がありましたが、無事に選定が完了し今年の1年生から中高一貫校の新たな制服を着用して学校生活を送っております。新たな制服を着こなす生徒を見るにつけ、鶴南・鶴北の歴史の転換点にいるということをひしひしと感じているところです。次に部活動については、新高校では現在両校にある部活動について、原則設置することが決定しています。併設型中学校についても設置部活動が決まりましたが、中高連携の在り方や活動場所の検討、働き方改革や部活動改革の議論をふまえた検討を継続していくこととしています。また生徒会活動については、現在両校の生徒会が交流しながら、新高校の生徒会規約・服装規定、生徒会行事等の検討を進めているところです。

北高南高1学年の合同ホームルーム

総務事務班会

今年度の大きな課題は庄内中高一貫校の校名の検討に関わることです。6月1日より1ヶ月間、校名案を公募し、ウェブや郵送により受付けました。今のところ今年の10月に庄内中高一貫校の新しい校名が公表される予定です。校名の確定後は、校章や校歌についての検討を進めていくことになっています。

入学者選抜に関する決定事項

令和6年度以降の入学者選抜に関して、①学科ごとの募集とし普通科200名、理数科80名とする。②理数科を第1志望とする者は普通科を第2志望として出願できる。③調査書の評定：学力検査の成績＝3：7とする。④学力検査の傾斜配点はしない。⑤理数科の推薦選抜は行わないとなっています。

また令和9年度以降の入学者選抜については、併設型中学校より進学してきますので次のようになります。①併設型中学校からの進学者（一貫生）の募集人員を普通科59名程度、理数科40名程度とする。②市町村立中学校からの進学者（高入生）の募集人員を、普通科141名程度、理数科40名程度とするとなっています。

（教頭　田村　裕）

校名決定

庄内地区に新設する中高一貫教育校の校名について

令和4年10月4日
高校改革推進室

1　校名

「自主自立」「新しい価値の創造」「社会的使命の遂行」を基本理念とし、令和6年4月に庄内地区に新設する県内2例目の併設型中高一貫教育校の校名は、次のとおりとする。

やまがたけんりつちどうかんちゅうがっこう
山形県立致道館中学校
やまがたけんりつちどうかんこうとうがっこう
山形県立致道館高等学校

○ 庄内藩の藩校であった致道館の教育は、個性に応じて才能を伸ばすこと、自ら考え学ぶ意識を高めること、意見を出し合い問題点を明らかにして解決策を考えることを重視しており、新設する中高一貫教育校の基本理念に通じるものである。

○ 致道館は広く認知されており、県民にとって親しみのある校名と思われる。

※ 令和5年6月議会に、山形県県立学校設置条例の改正案を上程する。

2　応募状況

○ 令和4年6月1日から6月30日までの公募期間中に寄せられた校名案は、応募総数713件、応募校名数339点。

○ 応募が多かった校名案（応募数）
致道館(103)、鶴岡致道館(62)、鶴岡(45)、鶴翔(27)など

県ホームページより

新同窓会設立に向けて

新高校の開校を受け、鶴翔同窓会・如松同窓会は今後についての準備を始めています。

令和4年度になってから、両同窓会それぞれの役員3名ずつで「同窓会統合準備事務局」を立ち上げました。隔月に会議を行い、以下の基本方針を確認しました。

一、鶴翔同窓会と如松同窓会を統合し新同窓会を発足する。

一、両同窓会の会員・物品・会計等の全てを新同窓会に引き継ぐ。

今後は、新同窓会の名称・会長理事役員・会則会計・事務局・同窓会報・名簿発刊等々の詳細について協議を重ね、両同窓会の合意を得て令和6年度新同窓会設立総会を迎える予定です。

本校の令和5年最終年度の予定として、7月に、創立135周年記念式典、記念講演の開催を計画しています。

その後閉校式と鶴翔同窓会の閉会式をもって、鶴岡南高校・鶴翔同窓会共に幕を閉じることになります。

検討事項として秋以降に、閉校記念誌の発行、閉校記念碑の設置があります。

なお、『鶴翔会館』の名称は存続するように、県教育委員会へ要望していきます。

今後も「山形県立致道館高等学校」の新同窓会設立が円滑に進むよう尽力してまいります。

鶴翔同窓会事務局長
佐藤　守（昭51卒・83回）

支部便り

羽黒支部総会を開催

6月29日、手向・大進坊において本部から佐藤守事務局長、田村裕教頭先生をお迎えし、3年振りの総会を開催しました。近況を語り合い、和やかに交流することができました。

令和6年度から母校は庄内初の中高一貫校として新たな歴史をスタートするとのこと、未来に向かって益々発展されることを願っています。

7月4日、金野信勇元支部長がご逝去されました。これまでのご指導に感謝するとともに心からご冥福をお祈りいたします。

支部長　百瀬　清昭（昭46卒・78回）

鶴ケ岡城跡第三次発掘調査報告
「七ツ蔵」の掘遺構を確認

中高一貫校の施設整備に伴い、増築工事が行われる校舎と校舎の間にある中庭部分約300平方メートルを対象に、6月から8月末まで、県埋蔵文化財センターによる「鶴ケ岡城跡第3次発掘調査」が実施されました。

鶴ケ岡城は中世には大宝寺城と呼ばれ武藤氏、上杉氏の支配を経て、慶長6年（1601）に最上義光の隠居城として整備され、慶長8年（1603）には鶴ケ岡城と名を改められました。元和8年（1622）最上氏の改易によって酒井氏が入部し、鶴ケ岡城を居城とし整備を進め、寛永元年（1624）この地に七ツ蔵が置かれました。その敷地の規模は東西85間（約154メートル）南北60間（約103メートル）で外側に土塁を巡らし、さらにその回りに堀があったといわれています。中川蔵・山中蔵・京田蔵・御扶持方蔵（二蔵）・島蔵・櫛引蔵の順で並び、藩の扶持米を収め、藩士は米札と引き替えに飯米（はんまい）をここで受け取ったのです。

七ツ蔵は明治6年（1873）に取り壊され、明治30年（1897）この地に荘内中学校が建てられました。明治33年（1900）には七ツ蔵を囲んでいた堀が埋め立てられています。大正9年（1920）に鶴岡中学校と改称、昭和27年（1952）に鶴岡南高等学校となり、現在に至ります。

七ツ蔵の調査を進める過程で、上層から旧制中学校の校舎の基礎とした礎石が発掘されました。昭和13年（1938）に焼失した鶴岡中学校の再建時のものとみられ、前身の荘内中学校の礎石が転用された可能性もあるとのことです。

さらに下層から七ツ蔵の堀と考えられる遺構が見つかりました。蔵を囲む堀の北端部にあたるとみられ、現在の地表から約3・5メートルの深さになります。

遺物では江戸時代末期ごろとみられる陶磁器、七ツ蔵の建物かと推定される屋根瓦の一部や鶴が飛翔する姿をあしらった漆塗りの椀なども見つかりました。また調査箇所西側では中世・室町時代ごろと推定される出土品もあり、酒井氏入部、その前の最上氏の時代よりさかのぼる大宝寺城に関連する中世の遺跡の広がりが明らかになってきました。

酒井氏入部400年を記念する様々なイベントが実施されるなか、市民の関心も高く、8月11日に実施された現地説明会には猛暑の中、南高OB・OGはじめ多くの参加がありました。

菅原　ゆり

正門左側にある説明板

出土品の数々

恩師からのたより

①本校在職期間　②専門教科・部活　③思い出や近況、メッセージ等

三浦　晋 先生

（平11卒・106回）

①平成29年4月～令和4年3月
②数学・野球部・剣道部・卓球部
③生徒と保護者の皆様、教職員の皆様に助けていただき恵まれた5年間でした。生徒の学習に向かう真摯な姿勢は素晴らしく、特に数学の授業ではこちらが思いもしないアプローチからの解答を見るととても嬉しくなりました。柔軟に物事を見る目と粘り強く考え抜く力を持った生徒が多くさすが鶴南だなと思いました。部活動では3つの部を経験させていただきました。甲子園予選での綺麗な放物線を描いたホームランは今でも目に焼き付いています。防具一式を買い揃え、よしやるぞ！と思っていた剣道部…翌年卓球部へ…。その卓球部では全日本選手権やインターハイに出場する生徒との出会いもあり、オリンピック選手のプレーを間近に見ることができたこともいい思い出です。担任も経験させていただき素直で明るく一生懸命な生徒たちと過ごすことができたことはかけがえのない宝物です。令和3年卒のみなさん、元気ですか?これからの活躍を楽しみにしています。

現在、私は鶴岡北高校で1年次の担任をしています。北高も素敵な生徒たちが集ういい学校です。「自主・叡智・剛健」と「氣品・潑溂」を校訓とする伝統校が統合し校名が無くなってしまうことは残念で寂しい思いがあります。ですがそれ以上に「荘内の若人」と新しい「学びの庭」で過ごせることが楽しみでしかたありません。

鶴岡南高校、鶴岡北高校、そして新高校が高い志と挑戦する強い心を持ち、さらに飛躍・発展されることを願っています。

五十嵐暁子 先生

①平成27年4月～令和4年3月
②家庭科　バドミントン部
③通信制に7年間勤務いたしました。令和4年3月に通信制が閉課程となり庄内総合高校へ移転となりました。私は4月より酒田西高校に転勤となり、全く新しい環境の中で毎日を過ごしております。

通信制は、スクーリング出席、レポート合格、テスト合格の全ての条件が整って単位修得になります。生徒自身の「高校卒業資格を得る」という強い意志と実行力が必要です。様々な事情を抱えながらも根気強く学習を進める皆さんを見守り、サポートに努め、担任・進路指導担当として思いや願いをじっくり聞き、今できることは何か、一緒に考えました。自分の希望に向かい努力する皆さんの姿に成長を感じ、希望が叶った時や困難を乗り越え卒業を迎えた時、喜びを共有できたことは大変嬉しく、同時に皆さんの粘り強さを心から敬服しました。卒業生の皆さん、これからも、自分で自分の道を決めて幸せに生きてほしいと思います。

通信制での思い出として、バドミントン部で生徒とともに懐かしい体育館で汗を流したことや、教科の取り組みで「実験・実習の日」を設定し、寒天とゼリーの比較やカスタードプリンなどを生徒の皆さんと楽しく作ったことも心に残っています。

鶴南通信制最後の儀式の卒業式ではコロナの影響で校歌はCD演奏のみで歌えず、残念でした。新高校として益々のご発展をお祈りいたします。

勤続10年表彰

池田　雅明 先生

この度は、鶴岡南高校での永年勤続表彰をして頂き、誠に有難うございます。赴任直後は第2学年の正担任として、その後学年主任を2回させて頂き、現在は、第3学年の副担任として勤務させて頂いており、早くも11年目となりました。その間、学習・部活動そして学校行事等に一生懸命に取り組む本校生徒と触れ合い、又、長期休暇等に学校に来てくれた卒業生の近況を聞く度に、成長して将来が本当に楽しみである姿を見て、教員という職業のやりがいを感じているところです。

本校生徒は、将来各分野でのリーダーとして活躍する事が期待されている為、毎日がとても忙しい中で、本当によく頑張っていると思います。そんな生徒達につけてほしい力は、様々な逆境を乗り越える力（Resilience）と、正解がいくつもある問いの最適解を追求する力です。生きていく中で失敗することもあると思いますが、その状況に負けずに克服する力を本校でつけていってほしいのです。その際は、正解は必ずしも1つだけとは限りません。むしろ、何が正解かがわからない場合の方が多いと思います。それを、様々な角度から他人と協力して思考し行動する事で、自分なりに解決する事が求められる世界です。その為に、ぜひ一度は外に出て、自分や日本を見つめる経験もしてほしいと思います。

現在本校は、中高一貫校への移行期の中で、様々な改革を求められています。将来、卒業生達が鶴岡や日本の活性化に貢献できる人材になれるように、微力ながらお手伝いをさせて頂ければ幸いです。

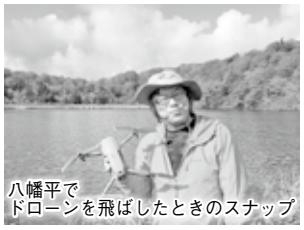
お久しぶりです!!
～各地で活躍の会員から～

ドローングラファーを目指して

三原　一郎（昭43卒・75回）

私がドローンを始めたのは6年程前に遡ります。子供の頃から模型飛行機やプラモデルなどの工作が大好きで、医師になってからはコンピュータプログラミングにハマっていました。そんなデジタルオタクが、ドローンというものを個人でも買えることを知り、早速ポチッたのは必然だったのでしょう。ところが、始めたばかりの頃のドローンは不安定で、しばしば回収不能な場所に不時着するなどの悲劇にしばしば襲われました。もう止めようと落ち込んだ時期もあったのですが、近年のドローンは格段に性能が向上し安心感に背中を押され再びドローンに熱中している昨今です。

ドローンは飛ばす事自体も面白いのですが、私にとっての最大の魅力はなんといっても空撮映像による作品づくりです。地上からは見たこともない絶景を撮ることは感動そのものですし、編集を通して作品に仕上げることでその感動を共有できることは大きな楽しみになりました。作品はYouTubeなどSNSに公開したり、待合室で放映したりしていますが、患者さんからは「ドローン映像素晴らしいですね」などと褒めて頂くこともあり嬉しい限りです。ドローングラファーとは、企画、空撮、編集、発信をすべて一人でこなす人のことです。今後とも、感動的な作品を創れるドローングラファーを目指し、美しい庄内の四季を伝え続けたいと思っています。なお、YouTubeから「三原一郎」で検索して頂くと過去の作品を視聴できます。



八幡平でドローンを飛ばしたときのスナップ

桜満開の鶴岡公園（ドローン撮影）

「大人の自由研究？」

小田　郁（昭53卒・85回）

全国一斉休校要請の三月に中学校を退職して三年目。担当した中三生は数々の想定外の高校生活を過ごしてもうすぐ卒業である。

どこの学校に赴任するかは全くの偶然だったが、偶然の場所でいただいたテーマを「大人の自由研究」として続けている。

櫛引のエスペランティスト齋藤秀一生誕百年の学年劇。沖縄・広島修学旅行への事前学習や事後の学習発表・展示・演劇上演の文化祭。遠くの戦争の歴史を学ぶとともに地元の戦争体験や銃後の生活を学ぶ集団読書。（『歯がみして生きて』佐藤玄祐著）

その関連で「鶴岡市平和の集い・資料展」をお手伝いして三年目の今年は終戦直前の湯野浜・西郷の空襲と鶴岡在住の東京大空襲被災者の証言ビデオ上映、漢詩「原爆行」（行とは歌のこと）を表した鶴岡出身の土屋竹雨など、地元鶴岡であまり知られていない史実の展示に関わった。直接体験を語る世代が亡くなりつつある今、このような企画に若い人の参加が増えてきたことは未来への希望だ。鶴岡育ちの私さえきちんと学んだ覚えのない地元の戦争の傷跡。過去に出会い直すことは未来を拓くことだと信じて、今しばらく「大人の自由研究」を続けたい。

「鶴岡市平和の集い・資料展」

高校時代を振り返って

加藤　有慶（昭58卒・90回）

記憶違いでなければ確かあれは小学生の頃、市内各校の児童会の生徒らが、「リーダー研修会」の名目で金峰少年自然の家に集い、1泊2日で同じ釜の飯を食う、そんな行事がありました。

飯盒炊飯、カレー作り、夜にはキャンプファイヤー、そして翌日のオリエンテーリング。密度の濃い時間は他校生と友達になる絶好の機会となりました。

しばし時は流れて高校の入学式。大人びた中に、懐かしい面影の残る、あの時の多くの友人と再会するのでした。地域のリーダーが多く集まる学校、それがこの鶴岡南高校ではないでしょうか。

入学して驚いたのは、何と言っても応援団です。昼休みになると、突然教室にやってきては新入生を着席させ、校歌や「鳳嶺月峰」を指導する。何故か竹刀持参だったりして、間違おうものなら机や黒板を叩いたりして、その迫力に震え上がったものでした。

庄内中高一貫校の開校を控え、「山河の姿」も歌われなくなるのかと思うと、少し寂しい気持ちになります。

家業を継ぎ地元に残った私は、年に何度か友人達と飲む機会があります。高校時代の思い出は、誌面に書くのも憚られるような失敗談も数多く、気が置けない仲間とどうしようもない話に花が咲くのですが、その仲間達の現在はどうかというと、これまたどうして。多少健康数値が悪化して、痩せたり太ったり。頭のものが少し寂しくなりながらも、「先生」と呼ばれる立場になっていたり、組織の中の管理職だったりで、今や地域に無くてはならないリーダー的存在になっていたりするので、小学校を振り返れば納得したり、高校時代を振り返れば驚いたりでとても感慨深いものです。

卒業から40年の時を経て、1人でも多くの仲間達とまた会えることを楽しみにしています。

コロナ前市内某所にて歓談

取材し続けて四半世紀

足立　直紀（平2卒・97回）

報道の世界に身を置いて、四半世紀以上が経ちました。村山政権の総理番から始まり、旧民主党の誕生、自公連立政権、小泉劇場、政権交代と、政界のさまざまな場面を取材し、伝えてこられたのは、鶴南野球部で鍛えた体力のおかげです。要領の悪い私は、知力よりも体力。朝から晩まで取材し、より多くの情報を仕入れることで、なんとか第一線でしのぎを削ってきました。

先日、安倍元総理が銃殺されるというショッキングなニュースが飛び込んできました。私は、第1次安倍政権では与党キャップ、第2次安倍政権では、初めの2年半を官邸キャップとして担当し、辞任の際には政治部長を務めていた浅からぬ縁です。当時、安倍総理と隣席で話した際に、内容は書けませんが、したたかな外交戦略を語ってくれたことを昨日の事のように思い出します。問題もありましたが、卓越した政治家でした。ご冥福をお祈りします。

ABEMA出演時にはこんな紹介が…

2015年サミット同行の政府専用機内で

私は、今は政治部長を卒業し、映像編集の二百人近くの部員を管理する立場になりました。取材の第一線からは身を引き、入社後初めて時間のゆとりができました。コロナ禍で延期になっている同窓会が開催されたら、旧交を温めるとともに、鶴岡の良さを再確認すべく、ゆっくり歩き回りたいです。

いつまでも続く

石川　豊（平5卒・100回）

自然と南高との関係も薄れていって思い出すことも少なくなっていくのだろう。そんな思いが、卒業の頃にはありました。

しかし、進学・就職と歩みを進めれば進めるほど、南高との縁は繋がり続けるばかりでした。

大学での自己紹介で、同じ南高出身者ということがわかると、何の教科を選択したか？どの先生から教わったか？学校の雰囲気はどうだったか？そんな話の内容で盛り上がったものです。

仕事場で出会った先輩や後輩とのやり取りでは、南高の出身だということが分かると、いつも同じような話の流れになります。

内容と言えば、それぞれの当時の思い出話ですが、共通するキーワードは「いやぁ、あの頃はひどくてさぁ。」思い思いの高校生活で苦労したことを語りだします。

高校生活を過ごした時代が違っても内容に共通点があることで共感しあったり、相違点で面白がったりと、「ひどくって」と口で言っている割には、誰もが表情はほころび、目は笑っています。

このようなやり取りは、きっとこれからも、どこかで同じように繰り返されていくのでしょう。

3年ぶりのアラバキロックフェス

長谷川高輔（平15卒・110回）

鶴岡南高校を卒業後、横浜で学生生活を6年、愛知県の自動車部品会社に就職し早13年。気づけば鶴岡で過ごした年月よりも長く県外で生活している事実に驚いています。GW、夏休み、冬休みと長期連休には妻子と鶴岡で過ごしてたせいでしょうか。

さて、コロナ生活が始まって2年以上が経ちましたが、その間、我が家にも第三子・長女誕生という大きな出来事がありました。私は妻の出産前後合わせて9か月ほどの育児休業を取り、ステイホームの大半を妻子と向き合うことに費やしました。上二人の子もいる中で、ちょうど良い機会だったと思います。鶴翔同窓会の皆さん、男性育休おススメですよ。広めましょう！

そんな幸せな家族生活ですが、何かが足りない。それがライブでした。特に、東北を代表するフェスであるアラバキ（荒吐）ロックフェス。コロナ前、南校同級生や家族で何度も参加していたのに、2年間の中止。3年ぶり開催の今年、家族でみちのく公園についた時には感無量でした。さらにライブの一音が鳴った瞬間、全身に血が通い、生き返ったと感じた程です。本当に良かった。

来年は20年ぶりに同級生と同窓会を行えることを期待しています。

アラバキ（荒吐）での息子たち

在校生の活躍
――全国で 地元で――

朗読劇「父と暮せば」に出演して

3年4組
渡邊　凛

「父と暮せば」に出演することが決まったのは、ニュースで戦争の話題が持ちきりになるよりも前のことでした。コロナ禍ということもあり公演する日時を見計らっていたところ、身近に戦争が行われている中でこの作品を公演することになりました。

ユニセフ　ウクライナ人道支援募金　劇団いでは特別公演

井上ひさしさんが脚本された「父と暮せば」という作品は、広島に投下された原爆で何もかもを失ってしまった福吉美津江の前に、幽霊となった美津江の父、福吉竹造が現れるというお話です。私は福吉美津江を演じました。美津江は、友人や大切な家族の竹造を失い、自分だけが生きていることに負い目を感じていました。自分の幸せを願う幽霊の父との対話、自分のすべてを受け入れ、想ってくれる人との出会いを通して、自分の幸せを見つめていこうと希望を抱くようになります。

美津江の言葉の中には、口に出すのもはばかられるほど悲しい言葉がたくさんありました。私が美津江を演じる中で感じた苦しみとは比にならないものが、当時には何万も何百万も存在したのだと思いますし、今も存在しているのだと思います。平和とは何か、自分にできることはないのか、今一度みんなで考えていけたらと思います。「父と暮せば」に出演することができたこと、見てくださった方に届けることができたこと、本当に光栄です。まだまだ未熟な私を支えてくださった関係者の皆様には感謝しかありません。ありがとうございました。

全日制

【全国大会】

●水泳部
インターハイ出場
50m自由形　三浦　智成（3年）
200m自由形　佐藤　隆晴（2年）
50m自由形　疋田きらり（2年）
4×100mフリーリレー
佐藤　隆晴（2年）
三浦　智成（3年）
小林　竜士（1年）
進藤悠大郎（2年）
小池　健人（3年）
4×200mフリーリレー
三浦　智成　佐藤　隆晴
進藤悠大郎　小林　竜士
五十嵐優人（2年）

●卓球部
インターハイ出場
武藤　菜要（2年）
渡部　実優（2年）

●アーチェリー部
インターハイ出場
男子団体　成澤　璃玖（3年）
阿部　祐太（3年）
長谷川泰正（2年）
男子個人
長谷川泰正、阿部祐太、成澤璃玖
女子団体（鶴南鶴北合同）
富樫　英花（2年）
佐藤　日和（鶴北）
富樫　心春（鶴北）
女子個人　富樫　英花

●科学部
第46回全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場（東京都）

【東北大会】

●水泳部
東北高等学校選手権水泳競技大会（岩手県盛岡市）

●卓球部
東北高等学校卓球選手権大会（福島県いわき市）

●アーチェリー部
東北高等学校アーチェリー選手権大会（宮城県登米市）

●陸上競技部
東北高等学校陸上競技大会出場
男子400mリレー
齋藤　幹泰（1年）
室田　竜磨（3年）
鈴木　汐優（3年）
加藤　諒（3年）
女子100m　佐藤　花夏（2年）
女子400mハードル　成田　栞（1年）
女子円盤投　決勝　小林　聖彩（3年）

●吹奏楽研究会
東北吹奏楽コンクール高等学校の部
銅賞

●音楽部
全日本合唱コンクール東北支部大会
銀賞

●白甕社創立98周年美術展
白甕社賞　蓮池　未奈（2年）

●第12回高校生バイオサミットin鶴岡
農林水産大臣賞　本間　千裕（3年）

母校だより

全日制

令和3年度の卒業生　193名

令和4年度教職員の異動

（転　出）

坂尾　聡（校長・退職）
佐藤　照子（国語・鶴岡中央高校）
小松　範明（理科・酒田西高校）
鈴木加奈子（英語・鶴岡北高校）
三浦　晋（数学・鶴岡北高校）
土門　和宏（理科・常勤講師・酒田光陵高校）
望月　紀宏（数学・常勤講師・山形中央高校）
高橋　紘人（情報理科・実習講師・遊佐高校）
佐藤　かよ（養護助教諭・庄内総合高校）
藤橋　弘行（事務部長・県立図書館）
齋藤　裕子（事務部次長・庄内総合事務所）
霜越　勤（主任主査・退職）

（転　入）

遠田　達浩（校長・数学・県教育庁）
南葉　和美（数学・庄内総合高校）
小笠原智哉（理科・酒田光陵高校）
菅原　和恵（英語・鶴岡北高校）
髙橋　直子（国語・常勤講師・酒田市立第二中学校）
吉泉　亜美（数学・常勤講師）
直井千佳子（英語・常勤講師・酒田東高校）
豊田　志穂（情報理科・実習講師・鶴岡中央高校）
本間　由佳（養護教諭・庄内農業高校）
筧　治（事務部長・県庁消費生活地域安全課）
森　明奈（主査・鶴岡南高校山添校）
飯田　浩基（主任主査・庄内総合支庁用地課）
佐藤　正志（学校技能員・鶴岡南高校山添校）
金内　智絵（校務補助員・鶴岡北高校）

通信制

令和3年度の卒業生　**令和3年度末で閉課程**

56名（9月2名　3月54名）

令和4年度教職員の異動

（転　出）

池田　貴之（教頭・地歴・庄内総合高校通信制）
五十嵐留美（国語・庄内総合高校通信制）
五十嵐　満（地歴・庄内総合高校通信制）
池田　努（地歴公民・庄内総合高校通信制）
佐藤　敬司（数学・退職）
長南　友也（理科・庄内総合高校通信制）
菅原　秀記（理科・庄内総合高校通信制）
佐々木保重（保健体育・庄内総合高校通信制）
池田　律子（英語・遊佐高校）
五十嵐暁子（家庭・酒田西高校）
本間　美加（商業／情報・庄内総合高校通信制）
小野田潤一（国語・非常勤講師・退職）
渡部　康（書道・非常勤講師・退職）
鷲田　孝行（保健体育・非常勤講師・退職）
植村　久美（養護・非常勤講師・庄内総合高校通信制）
佐藤　和義（事務・退職）

進路状況

【令和3年度進路状況】

①東大、京大、東工、一橋各1名合格
②医学部医学科　9名合格
③東北大学　14名合格
④国公立大学　124名合格

《共通テスト》

生徒191名が、共通テストに出願した。5教科900点型で本校平均点は543・0点であった。全国平均521・8点を上回り、県内高校別で3位の好結果となった。

《合格状況》

難関大学では、東大、京大、東工大、一橋大各1名、医学部医学科9名、東北大14名、防衛大学校1名という素晴らしい結果を残した。

医学部医学科の9名合格は過去最高であり、東北大14名は、5クラスになってから3回目の快挙である。上位層の健闘が際立った学年であった。

国公立大学の合格者数は、124名であった。在籍数に対しての合格率は、64・2％で、県内2位の好成績であった。地元や近隣の大学に多く進学している傾向にある。

私立大学は、延べ278名の合格。慶應義塾大、早稲田大、上智大、東京理科大、明治大、立教大、立命館大など、難関大学に数多く合格した。

過年度卒生も、京大1名、大阪大1名、電気通信大1名、宇都宮大1名、同志社大1名、立命館大2名等、健闘した。中でも、医学部医学科に9名合格した。現役生と合わせると、医学部医学科に18名合格した。特筆に値する活躍であった。

（進路指導課長　安野　浩夫）

主な大学合格者数（現役のみ・延べ人数）

国公立大学	弘前	4
	岩手	2
	東北	14
	宮城教育	2
	秋田	8
	山形	16
	茨城	1
	筑波	3
	宇都宮	2
	埼玉	6
	東京	1
	東京学芸	4
	東京工業	1
	一橋	1
	新潟	19
	富山	1
	金沢	2
	宮城	5
	京都	1
	秋田県立	2
	新潟県立	5
	高崎経済	5
	その他	19
国公立大学計		124

私立大学	早稲田	1
	慶應義塾	1
	上智	1
	東京理科	3
	立教	3
	明治	5
	法政	2
	立命館	5
	東北学院	25
	その他	232
私立大学計		278

進路状況

卒業者数		193
進学内訳	国公立大学	124
	私立大学	53
	短期大学	1
	各種学校等	1
進学者計		179
就職者数		1
進学準備等		13

叙勲・表彰　『誠におめでとうございます』

（敬称略「同窓会だより」第62号以降）
令和4年10月1日現在

上野　藤吉	昭40年卒・72回	令和2年2月	瑞宝双光章（税務行政事務功労）
阿部　静夫	昭43年卒・定39回	令和3年 秋	瑞宝単光章（警察功労）
工藤　博	昭44年卒・76回	令和3年 秋	瑞宝双光章（教育功労）
難波　信明	昭44年卒・76回	令和3年 秋	瑞宝双光章（教育功労）
阿部　淳	昭29年卒・61回	令和3年12月	瑞宝双光章（教育功労）
佐藤　恒雄	昭27年卒・59回	令和4年2月	瑞宝双光章（教育功労）
国井　英夫	昭44年卒・76回	令和3年度	山形県 産業賞
滝川　義朗	昭51年卒・83回	令和3年度	鶴岡市 卓越技能者表彰
菅原　晃	昭38年卒・70回	令和4年 春	瑞宝小綬章（教育研究功労）
後藤　晃	昭28年卒・60回	令和4年5月	瑞宝双光章（教育功労）
嶋屋　誠	昭38年卒・70回	令和4年8月	瑞宝小綬章（教育研究功労）
成沢　東作	昭38年卒・70回	令和4年8月	瑞宝双光章（教育功労）
榎本　政規	昭43年卒・75回	令和4年10月	鶴岡市政功労表彰（地方自治功労）
山田　登	昭30年卒・62回	令和4年10月	鶴岡市政功労表彰（社会福祉・市民生活功労）
櫻井　好和	昭35年卒・67回	令和4年10月	鶴岡市政功労表彰（社会福祉・市民生活功労）
板垣　壮典	昭33年卒・定29回	令和4年10月	鶴岡市政功労表彰（社会福祉・市民生活功労）

訃報　『謹んで哀悼の意を表します』

（敬称略「同窓会だより」第62号以降）
令和4年10月1日現在

阿部　邦司	旧職員S50.4～S57.3	成瀬　喜哉	昭28年卒・60回	坂本（粕谷）紀夫	昭35年卒・67回
川島　幸之輔	4修	林（清水）順子	昭28年卒・60回	佐藤　和子	昭35年卒・67回
瀬尾　敬一	昭23年新卒・1回	丸山（亀田）洋子	昭28年卒・60回	金野　信勇	昭35年卒・67回
毛呂　千鶴夫	昭20年⑤卒・53回	五十嵐　弘二	昭28年卒・定23回	菅原　昭市	昭35年卒・商9回
今間　金雄	昭21年卒・54回	阿部（小南）淳	昭29年卒・61回	若木　利男	昭35年卒・定31回
中里　欣一	昭21年卒・54回	上林　清一	昭29年卒・61回	長沢　清一	昭35年卒・定31回
上野　富雄	昭23年卒・55回	斎藤　洋次郎	昭29年卒・61回	佐藤　正	昭36年卒・68回
酒井　徹	昭23年卒・55回	佐藤（富樫）冴子	昭29年卒・61回	吉田　義彦	昭36年卒・定32回
佐藤　進	昭23年卒・55回	菅（斎藤）澄	昭29年卒・61回	嶋屋　誠	昭38年卒・70回
河井　幸夫	昭25年卒・57回	齋藤　太通實	昭29年卒・商3回	成沢　東作	昭38年卒・70回
石井　良	昭26年卒・58回	菅原　實	昭29年卒・定25回	丸谷　俊一	昭38年卒・商12回
石川　恒二	昭26年卒・58回	宮崎（佐藤）勝雄	昭29年卒・定25回	小泉　政明	昭39年卒・71回
伊藤（五十嵐）音子	昭26年卒・58回	志村（小田島）千草	昭30年卒・62回	佐藤　徹	昭39年卒・71回
伊藤（森谷）菊栄	昭26年卒・58回	高橋　宏榮	昭30年卒・62回	佐々木　八一	昭39年卒・商13回
今坂（大井）多恵子	昭26年卒・58回	宇治　淳喜	昭30年卒・62回	斉藤　保明	昭40年卒・72回
菅原　昌子	昭26年卒・58回	斎藤　忠雄	昭30年卒・62回	白鳥　忠幸	昭40年卒・72回
加茂（日向）千代子	昭26年卒・58回	尾形（石川）敏	昭30年卒・商4回	広瀬　渡	昭40年卒・72回
奥山　弘	昭26年卒・58回	長谷川　松夫	昭30年卒・商4回	佐藤　宗雲	昭41年卒・73回
匹田　軍次	昭26年卒・58回	上野　健	昭30年卒・定26回	伊藤　昭男	昭42年卒・74回
青澤　治芳	昭26年卒・定21回	原田　岩生	昭30年卒・定26回	國松（寒河江）基	昭42年卒・74回
佐藤　正	昭26年卒・定21回	髙橋　清一郎	昭31年卒・63回	今村（高橋）まさ子	昭42年卒・74回
工藤（長南）孔	昭27年卒・59回	五十嵐　好	昭31年卒・商5回	菅原　久雄	昭42年卒・定38回
高橋　昇	昭27年卒・59回	若木　新一	昭31年卒・商5回	真田　幸正	昭43年卒・75回
保坂　譲	昭27年卒・59回	佐藤　健治	昭32年卒・64回	瀬尾　勉	昭47年卒・79回
岡部　正吉	昭27年卒・商1回	豊田　健造	昭32年卒・64回	上林　真一	昭47年卒・79回
大高　和美	昭27年卒・商1回	和田　貞雄	昭32年卒・64回	斎藤　潤	昭60年卒・92回
星川（小池）富吉	昭27年卒・定22回	山下（大川）澄子	昭32年卒・64回	斎藤　豊文	昭63年卒・95回
石井（渋谷）多美子	昭28年卒・60回	八向　勉	昭33年卒・65回	青山　久美子	平11年卒・106回
佐藤　健治	昭28年卒・60回	佐藤　悦郎	昭33年卒・定29回	平賀　修太郎	平19年卒・114回
中田（今野）やす子	昭28年卒・60回	石川　辰平	昭34年卒・66回		（89人）

令和３年度　鶴翔同窓会　事業報告

理　事　会	第１回（4/30 在宅書面）
役　員　会	第１回（4/22 学校会議室）・第２回（11/8 学校会議室）
総　会	5/9 ～ 5/14 ホームページに掲載
創立 133 周年記念行事（7月1日） ※祝賀会は中止	13:00 ～記念式典・記念講演：荘銀タクト鶴岡
	講師：山口昌弘氏（S56 卒 88 回） 東北大学副学長・同大学院教授 演題『量子の世界に魅せられて』
同窓会だより	第 62 号 16,250 部発行（11/1）
令和３年度入学式	全日制：201 名（R3.4/9）　通信制：42 名（R3.4/18）
令和３年度卒業式	全日制：193 名（R4.3/4）　通信制：2 名（R3.9/30）53 名（R4.3/13）

令和３年度　鶴翔同窓会一般会計　決算

令和３年４月１日～令和４年３月 31 日　単位：円

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 会費	5,625,000	5,400,178	▲ 224,822	
① 入会金	1,125,000	1,240,000	115,000	@5,000 円×（193+55）名
② 維持会費	4,500,000	4,160,178	▲ 339,822	@3,021 円× 1,377 件（ゆうちょ 718, コンビニ 580, クレジット 79）
2 寄付金	1,300,000	1,576,888	276,888	247 件
3 広告料	0	0	0	同窓会だより：0 件
4 繰入金	797,702	797,702	0	鶴翔会館エアコン特別会計の閉鎖に伴う繰入
5 繰越金	655,856	655,856	0	前年度からの繰越金
6 雑収入	91,442	125,266	33,824	エアコン PTA 使用料 120,752 円、会員名簿売却代他
合計	8,470,000	8,555,890	85,890	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 運営費	1,584,000	1,559,745	▲ 24,255	
① 会議費	10,000	0	▲ 10,000	事務局会議、役員会、理事会、総会
② 需用費	140,000	122,778	▲ 17,222	はがき、切手、事務用品、インターネット接続他
③ 負担金	720,000	720,000	0	PTA 書記給与負担金
④ 旅費	10,000	0	▲ 10,000	支部総会出席者旅費等
⑤ 支払手数料	310,000	278,087	▲ 31,913	維持会費・寄付金振替手数料
⑥ 鶴翔会館エアコン費	94,000	137,384	43,384	ガス支払料金、R7 予定のメンテナンス
⑦ 雑費	300,000	301,496	1,496	事務局員活動費、慶弔費、諸雑費
2 事業費	3,883,000	3,988,266	105,266	
① 同窓会報印刷発行費	2,800,000	2,846,536	46,536	印刷費・封筒・発送費等
② 創立記念事業費	200,000	369,530	169,530	タクトで学校関係者対象の式典と講演（祝賀会は中止）
③ ホームページ運営事業費	183,000	182,600	▲ 400	ホームページ運営費
④ 支部総会補助費	0	0	0	支部総会には不参加
⑤ 卒業記念品	200,000	189,600	▲ 10,400	卒業証書ファイル（240 冊）
⑥ 事業積立金会計繰出金	500,000	400,000	▲ 100,000	事業積立金会計への繰出金（運転資金の残金）
⑦ 学校支援特別会計繰出金	0	0	0	学校支援活動特別会計への繰出金
3 予備費	3,003,000	0	▲ 3,003,000	
合計	8,470,000	5,548,011	▲ 2,921,989	

〔収入〕8,555,890 円−〔支出〕5,548,011 円 =3,007,879 円（次年度への繰越）

令和３年度　事業積立金会計　決算

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰入金	500,000	400,000	▲ 100,000	
2 手数料	0	0	0	「会員名簿」発刊時の還元金
3 繰越金	8,553,552	8,553,552	0	前年度からの繰越金
4 雑収入	48	55	7	預金利子
合計	9,053,600	8,953,607	▲ 99,993	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰出金	0	0	0	一般会計へ
2 創立記念事業費	200,000	200,000	0	通信制の閉課程記念事業に助成
3 予備費	8,853,600	0	▲ 8,853,600	
合計	9,053,600	200,000	▲ 8,853,600	

〔収入〕8,953,607 円−〔支出〕200,000 円 =8,753,607 円（次年度への繰越）

令和３年度　学校支援特別会計　決算

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰入金	0	0	0	一般会計より
2 寄託金	200,000	238,649	38,649	全日卒業生、同期会等から
3 繰越金	6,528,311	6,528,311	0	前年度からの繰越金
4 雑収入	89	59	▲ 30	預金利子等
合計	6,728,400	6,767,019	38,619	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備　考
1 激励活動費	200,000	71,000	▲ 129,000	新会員の受験対策支援（仙台・東京・京都方面）
2 整備活動費	300,000	22,000	▲ 278,000	設備・物品等ハード面の整備
3 在校生活動奨励費	300,000	160,072	▲ 139,928	在校生の支援、活躍した部・個人への助成・祝金
4 予備費	5,928,400		▲ 5,928,400	
合計	6,728,400	253,072	▲ 6,475,328	

〔収入〕6,767,019 円−〔支出〕253,072 円 =6,513,947 円（次年度への繰越）

令和４年度　鶴翔同窓会一般会計　予算

令和４年４月１日～令和５年３月31日　単位：円

収入の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 会費	5,625,000	4,875,000	▲750,000	
① 入会金	1,125,000	975,000	▲150,000	@5,000円×195名
② 維持会費	4,500,000	3,900,000	▲600,000	@3,000円×1,300件
2 寄付金	1,300,000	1,300,000	0	240件
3 広告料	0	0	0	同窓会だより：0件
4 繰入金	797,702	0	▲797,702	事業積立金会計より
5 繰越金	655,856	3,007,879	2,352,023	前年度からの繰越金
6 雑収入	91,442	117,121	25,679	エアコンPTA使用料、会員名簿売却代他
合計	8,470,000	9,300,000	830,000	

支出の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 運営費	1,584,000	1,630,000	46,000	
① 会議費	10,000	10,000	0	事務局会議、役員会、理事会、総会
② 需用費	140,000	140,000	0	はがき、切手、事務用品、インターネット接続他
③ 負担金	720,000	730,000	10,000	PTA書記給与負担金
④ 旅費	10,000	10,000	0	支部総会出席者旅費等
⑤ 支払手数料	310,000	310,000	0	維持会費・寄付金振替手数料
⑥ 鶴翔会館エアコン費	94,000	130,000	36,000	ガス支払料金、R7予定のメンテナンス
⑦ 雑費	300,000	300,000	0	事務局員活動費、慶弔費、諸雑費
2 事業費	3,883,000	4,333,000	450,000	
① 同窓会報印刷発行費	2,800,000	2,900,000	100,000	印刷費・封筒・発送費等
② 創立記念事業費	200,000	400,000	200,000	タクトで学校関係者対象の式典と講演（祝賀会は中止）
③ ホームページ運営事業費	183,000	183,000	0	ホームページ運営費
④ 支部総会補助費	0	30,000	30,000	
⑤ 卒業記念品	200,000	170,000	▲30,000	卒業証書ファイル（200冊）
⑥ 事業積立金会計繰出金	500,000	650,000	150,000	事業積立金会計への繰出金（運転資金の残金）
⑦ 学校支援特別会計繰出金	0	0	0	学校支援活動特別会計への繰出金
3 予備費	3,003,000	3,337,000	334,000	運転資金相応の金額（事業費①②④）
合計	8,470,000	9,300,000	830,000	

令和４年度　事業積立金会計　予算

収入の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰入金	500,000	650,000	150,000	
2 手数料	0	1,400,000	1,400,000	「会員名簿」発刊時の還元金
3 繰越金	8,553,552	8,753,607	200,055	前年度からの繰越金
4 雑収入	48	93	45	預金利子
合計	9,053,600	10,803,700	1,750,100	

支出の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰出金	0	0	0	一般会計へ
2 創立記念事業費	200,000	0	▲200,000	
3 予備費	8,853,600	10,803,700	1,950,100	
合計	9,053,600	10,803,700	1,750,100	

令和４年度　学校支援特別会計　予算

収入の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 一般会計繰入金	0	0	0	一般会計より
2 寄託金	200,000	200,000	0	全日卒業生、同期会等から
3 繰越金	6,528,311	6,513,947	▲14,364	前年度からの繰越金
4 雑収入	89	53	▲36	預金利子等
合計	6,728,400	6,714,000	▲14,400	

支出の部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
1 激励活動費	200,000	200,000	0	新会員の受験対策支援（仙台・東京・京都方面）
2 整備活動費	300,000	300,000	0	設備・物品等ハード面の整備
3 在校生活動奨励費	300,000	1,800,000	1,500,000	在校生の支援、活躍した部・個人への助成・祝金
4 予備費	5,928,400	4,414,000	▲1,514,400	
合計	6,728,400	6,714,000	▲14,400	

令和４年度　鶴翔同窓会　役員・事務局体制

役員

- 顧問　石黒　慶一（昭35・67回）
- 会長　齋藤　正志（昭44・76回）
- 副会長　國井　英夫（昭44・76回）　田中　芳昭（昭46・78回）　黒澤　久子（昭46・78回）
  滝川　義朗（昭51・83回）　渡會　俊仁（昭57・89回）　遠田　達浩 新（校長）
- 会計監事　堀　真一（昭53・85回）　金井　昌弥（昭59・91回）　菅原　一浩（昭60・92回）

事務局

- 事務局長　佐藤　守（昭51・83回）
- 事務局員　髙樹　陽子（昭45・77回）　石塚　俊朗（昭45・77回）　須田　まき（昭49・81回）
  菅原　ゆり（昭51・83回）　北風　秀明（平2・97回）　佐藤　英成（平5・100回）
  本間　康弘 新（平9・104回）
- 学校側　筧　治 新（事務部長）　田村　裕（教頭・昭60・92回）　佐藤　義徳（総務課長）
- 事務補助員　齋藤　優子

寄付者芳名簿

令和3年4月1日～令和4年3月31日
件数247件 合計金額1,576,888円

旧職員
柴田曜子 稲垣悦一 串田聡雄 佐々木尚伸 佐藤經子 渡部芳雄

通信制
昭和43(一二回) 丸山光平 阿蘇茂雄
昭和45(一四回) 阿蘇信子
昭和61(三〇回) 高澤幸子
平成28(六〇回) 成田周平

定時制
昭和29(二五回) 岡本美至子 高田啓一
昭和38(三四回) 齋藤紘
昭和39(三五回) 照井和直
昭和40(三六回) 衣川和重
昭和43(三九回) 畑山孝一

全日制
4修 佐藤武良
昭和20(五三回) 5学年 小倉幸男
4学年 寒河江辰巳
昭和24(五六回) 渡辺成就
昭和25(五七回) 小林英弥 常世寛
昭和26(五八回) 佐藤満亀 中川健治 皆川和夫
昭和27(五九回) 中西好子 佐藤成生
昭和28(六〇回) 佐々木洋子 鈴木ゆき 菅田き美 鍋田滋子 宗片邦義 斎藤文夫
昭和29(六一回) 池田恭平 武田好子 西海隼雄 三浦郁也 市川清治 菅原正子
昭和30(六二回) 太田勝美 上林正壽 佐藤新市 佐藤玲子 本間隆 林淳江 林茂生
昭和31(六三回) 高橋昭男
昭和32(六四回) 大井真 鶴田泰三 山崎正士 河井勉 小林直生 池田真祥 鈴木啓五 長南君子
昭和33(六五回) 佐藤隆 大川雅弘
昭和34(六六回) 阿部辰郎 三浦宏平 加賀山隆士 佐藤千久郎 三矢正士 忠鉢元 藤田充宏 芳賀卓 木村宏嗣
昭和35(六七回) 和田善二 門脇厚司 阿部茂弘 今野橘 斎藤興哉 吉田修平 上野益男 森田洋子
昭和36(六八回) 恩田隆嗣 中里亮子 渡部洋 芳賀純 田口信 佐藤清四郎
昭和37(六九回) 伊藤邦彦 今野彦雄 古野嵩恒 鹿内竣一 富樫幸彌
昭和38(七〇回) 上林治 齋藤健吾 佐藤隆 菅原司 中野捷夫 堀井善道 渡曾勲夫 寒河江孝允 太田司郎 加藤政五郎 丸山鎮 富樫次男
昭和39(七一回) 後藤英則 高宮宏 小池泰弘
昭和40(七二回) 奥山輝之 菅原久滋 奈良増恒 本間實 伊藤賢司 加藤徹三 朝井正夫
昭和41(七三回) 市川政井 伊藤恵美子 梅下清治 髙嶋勝平 長谷川俊彦 上野敏郎
昭和42(七四回) 木戸美記子 齋藤啓純 新宮進 今村まさ子 舌津一良
昭和43(七五回) 伊藤篤 岡部次樹 塩野俊和 嶋屋司郎 西村百合子 野沢隆 吉成甲子 菊地正敏 森俊直 平川秀紀
昭和44(七六回) 風間寛 加藤明夫 小林紀雄 村田久志 佐藤幹夫 難波伸
昭和45(七七回) 五十嵐賢一 伊藤豊 坂郁子 杉山広志 野山秀男 本間敬士 渡辺眞史 犬塚貴 今井俊治 山田雅明
昭和46(七八回) 奥田明 本間徹 伊藤るみ 工藤秀敏 黒澤久子 大川英一 田中芳昭
昭和47(七九回) 北風芳春 今野実 庄司健一 佐藤清雄
昭和48(八〇回) 阿部繁 阿部恵 伊藤美津子 佐藤恒雄 佐藤正樹 菅原正明 土岐秀昭 本間明道 蛸井忠夫
昭和49(八一回) 佐藤政士
昭和50(八二回) 相澤康夫 伊藤圭二 上野聡一郎 及川典子 荒木厚
荒木陽子 大滝一 大滝多津
昭和51(八三回) 小野寺尚 五十嵐良克 佐藤守
昭和52(八四回) 岩本洋 後藤誠 成田伸 新田栄二 漆山正美
昭和53(八五回) 五十嵐透 仁平則行 本間正充 金内甲司 佐藤一良 大泉正
昭和54(八六回) 池田義広 三浦正登
昭和55(八七回) 富樫亮 本間健太郎 佐藤洋 相沢政男
昭和56(八八回) 佐藤周行
昭和57(八九回) 酒井滋 大塚明子
昭和58(九〇回) 池田由喜 加藤有慶 菅原秀記
昭和59(九一回) 佐藤進也 佐藤卓也 成田るみ 船見博重 阿部淳二 金井昌弥
昭和60(九二回) 石川敦 村田尚志
昭和61(九三回) 渋谷洋 野口啓介
昭和62(九四回) 後藤英実
昭和63(九五回) 西塔晋司 樋口千佳子 佐藤洋 大泉仁晴
平成1(九六回) 福守久子 村山聡
平成2(九七回) 阿部修一 伊藤昌史 佐藤宏明 宮村恵
平成3(九八回) 池田剛紀 菅原直子 前田陽子
平成5(一〇〇回) 伊藤晃子 佐藤未奈子 小林英成
平成7(一〇二回) 菊地善彰 佐藤清輔 佐藤道義
平成8(一〇三回) 野尻善之
平成9(一〇四回) 飯井卓也 上野博行
平成10(一〇五回) 阿部裕 荒木康博 鹿戸直子 渡部覚
平成14(一〇九回) 吉野薫
平成15(一一〇回) 鏡雄一 森祥子
平成16(一一一回) 庄司宇
平成17(一一二回) 渡曾侑子
平成18(一一三回) 小松一磨
平成25(一二〇回) 守屋秋沙
平成28(一二三回) 五十嵐友彦

維持会費納入者芳名簿

令和3年4月1日～令和4年3月31日
件数1,377件 合計金額4,160,178円

寄付金・維持会費の区分がなかった方につきましては、3,000円を維持会費に、残りを寄付金として取り扱いさせていただきました。
誠にありがとうございました。

注：全日制において、卒年・回の次に入れた数字は、上から卒業者数・現会員数です。

旧職員
柴田曜子 稲垣聡一 江口陽子 兼子由香 鈴木伊和男 高橋鎮雄 日向香菜 結城正広 渡部芳雄 奥山浩志

通信制
五十嵐義昌 那須茂彦 平正明 片田美香
昭和37(六回) 伊與田正
昭和40(九回) 佐藤忠也
昭和43(一二回) 富樫勉 丸山光平 阿蘇茂雄
昭和45(一四回) 阿蘇信子
昭和49(一八回) 中條芳男
昭和50(一九回) 藤巻静
昭和52(二一回) 齋藤茂雄
昭和53(二二回) 茂木秀子
昭和58(二七回) 加藤恵津
昭和60(二九回) 牧小静
昭和61(三〇回) 高澤幸子
平成2(三四回) 小野寺壽昭
平成3(三五回) 兵藤愛子
平成5(三七回) 伊藤かね
平成11(四三回) 早坂一夫 富樫伸典
平成15(四七回) 三谷洋平
平成19(五一回) 門脇由季
平成28(六〇回) 伊藤蒼梧 成田周平
令和2(六四回) 長尾由美

定時制
昭和27(二二回) 田村和子
昭和28(二三回) 斉藤一三
昭和29(二五回) 岡本美至子 高田啓一 原田博司 三角雅子
昭和30(二六回) 丸山豊 今野和枝 板垣貞夫
昭和31(二七回) 三井ミヨ子 吉住彰修
昭和33(二九回) 山田晤夫
昭和34(三〇回) 剱持忠信
昭和35(三一回) 川上貞男
昭和37(三三回) 松浦志朗
昭和38(三四回) 五十嵐吉弥 齋藤紘 原田亘 結城光子
昭和39(三五回) 照井和直
昭和40(三六回) 衣川和重
昭和42(三八回) 大滝清策
昭和43(三九回) 菅原正 畑山孝一
昭和44(四〇回) 岡田つね子
昭和47(四三回) 真田慎一

全日制
4修 2・19・83 齋藤駿一郎 佐藤武良
新制中 昭和24(二回) 2・29・115 佐藤憲二 村越忠晴
昭和17(五〇回) 1・28・15 山崎克己
昭和18(五一回) 1・40・22 大瀧直之助 渡部士郎
昭和19(五二回) 1・24・25 須藤要三男 犬飼忠昭
昭和20(五三回) 5学年 1・51・26 富樫義雄 日向豊雄 小倉幸男
4学年 1・46・47 伊藤本男 寒河江辰巳
昭和21(五四回) 2・33・94 石田雄 芝田俊次 渡會俊正 佐々木敬輔 佐藤直 柴田康也
昭和23(五五回) 1・90・67 富樫稔 若松正夫 上野富雄 大川厚太郎
昭和24(五六回) 1・18・44 増田功 吉野久生 五十嵐長太郎 五十嵐和夫 三浦恒祺 植木清哉 成沢謙蔵 田村謙士 渡辺成就
昭和25(五七回) 1・87・71 榎本司郎 森康之 伊藤克彦 細井地久 笹原桂一 山濵敏一 小林英弥 常世寛 中村和夫 長浜邦明 富樫康吾
昭和26(五八回) 4・55・211 阿部忠志 伊藤裕 井上英子 梅津迪子 奥山弘 加藤晥三 川島協 後藤裕一 斎藤祐輔 佐藤満亀 白幡恭子 杉本皓一 鶴田恒子 中川健治 長濱自明 平田式子 山賀甚平 皆川英明 皆川和夫 高力朗 佐久間徳子 佐竹規成 笹原信一郎 上野純子 菅洋 石川恒二 早川恒子 増田幸子
昭和27(五九回) 5・61・312 青山孝子 池田修身 池田敏夫 石田光子 今西多津子 鈴木浩 富樫恭介 中西好子 増谷真子 山越廉 山本陽子 桑原貫次 犬塚潤二 今野昭二 佐藤成生 小倉つね 石田晋
昭和28(六〇回) 5・20・336 五十嵐和紀 榎木傳司 齋藤誠 佐々木洋子 鈴木ゆき 菅田き美 鍋田滋子 牧俊子 宗片邦義 加藤誠 興津佳子 佐久間美津雄 佐藤巌 佐藤健治 佐藤淑子 佐藤晴子 斎藤文夫 漆山幸一 漆山壽子 秋野哲雄 小川昌子 真嶋経一郎 成澤富雄 村上文昭 竹内和夫 柏倉良次 富田弘 佐藤正身 福井晃 菅原良子 本間三雄
昭和29(六一回) 5・40・364 青柳修 安達喜美子 阿部雅子 池田恭平 井上邦子 小田泰稔

ご寄付、維持会費の納入 ありがとうございました。

川島 譲　後藤寛子　斉藤貞夫　坂本玲子　佐藤慶子　佐藤直子　佐藤元威　椎名恒義　清野 均　高山敦子　富樫志津子　冨樫裕孝　長濱良子　西海隼雄　花岡正紀　真島吉也　八幡照子　渡邊成孝　岩田隆子　後藤 毅　佐藤啓輔　佐藤正吾　佐藤孑市　三浦郁也　三浦英二　市川清治　松田玲子　真嶋シゲ　菅原正子　多田 保　土田栄治　白幡順子　白幡壽美子　富塚和香　志村定子　工藤美智子　村田博芳　萬年良一

昭和30(六二回)299・198

五十嵐斐子　五十嵐良夫　市川誠祐　太田勝美　加藤 忠　金津豊文　上林正壽　斎藤 智　佐々木清太郎　佐藤清一　菅原敬子　鈴木清雄　瀬尾恒雄　高橋耕三　山田 登　愛川正一　安達瑛二　伊藤重夫　宇治淳喜　今野清二

佐藤信安　佐藤新市　佐藤 進　佐藤玲子　坂本徳太郎　山口 武　若公佳生　星川和夫　石垣藤子　富塚玄太郎　風間良造　本間 隆　林 淳江　林 茂生　鈴木 清　斉藤永吉

昭和31(六三回)304・182

生田直司　石川 隆　碓氷節雄　佐藤隆逸　佐藤知也　佐藤尚雄　重山貞夫　鈴木正士　高橋昭男　富樫 稔　長浜和明　羽田 晃　平田 宏　渡部真一　五十嵐只志　白澤朔朗　鈴木勝男

昭和32(六四回)296・199

阿部 清　板垣誠一郎　大井 真　齋藤 弘　佐藤忠夫　鶴田泰三　久松正章　日向常浩　牧 一二　宮本慶子　山崎正士　山科誠久　阿部安宏　榎本克弘　岡部鉄太郎　岡部 保　河井 勉　吉続正義　魚住昌也　工藤秀弥　佐藤久夫　佐藤洋子　佐藤隆三

山田嘉明　小花吉彦　小林直生　新井健一　真島知夫　石川一夫　大滝三郎　池田真祥　渡部 功　富樫誠次　本間 進　木根渕清志　鑓水宜子　鈴木啓五　長南君子　佐藤孝昭

昭和33(六五回)305・199

五十嵐幸一　宇治将凱　小倉 進　後藤 武　小松原隆治　今野 隆　酒井 厚　佐藤俊士　佐藤 隆　菅原宏之　早坂 剛　松井清次　松田義幸　宮河 肇　村井 紘　山城美和子　伊藤 蒇　金内勝雄　佐藤 晃　坂 譲　寺嶋育男　小北英夫　水口貫士　大渕辰六　渡会格弥　渡部 明　鈴木武彦　大川雅弘　吹野佐智子

昭和34(六六回)292・200

阿部辰郎　阿毛要雄　石黒 肇　石沢生子　粕谷英樹　佐藤武雄　菅原喜之　鈴木康子　中村喜彦　古谷幸子　三浦宏平

村田 啓　安野正紀　安野宏一　遠藤総子　加賀山隆士　丸金修文　橋本健二　佐藤克巳　佐藤千久郎　三井照代　三矢正士　上野正勝　菅原 求　清野 功　西方陸哉　村田 良　大友 浩　中嶋 茂　忠鉢 元　藤田充宏　芳賀 卓　本間文祐　木村宏嗣　門脇厚司　蓮池光正　足達哲郎　大山駿次　岸井宏樹　鈴木康志　和田善二

昭和35(六七回)300・210

阿部茂弘　池田 攻　市川祐次　加藤捷男　神林 真　上林廣行　工藤ゆき子　近藤 進　齋藤敬治　斎藤興哉　齋藤英雄　齋藤久樹　斎藤伸吾　櫻井好和　佐藤圭三　佐藤堅一　砂田則雄　高井 實　原野旌子　三浦 襄　宮川鵬史　山楯亮介　吉田修平　若松浩夫　渡辺 恂　伊藤郁夫　加藤 曠　久家克士

金野信勇　今野 橘　佐藤鋭一　佐藤幹生　三浦喜和男　寺嶋成晃　小野寺 凡　上野益男　森田洋子　真田邦夫　石黒慶一　渡部 亘　粕谷淳二　猊倉祐子　青沢郁子　藤井靖男　伊藤征彦　五十嵐志郎　佐藤 幸　星川伸子　富樫悦子　富樫繁矢

昭和36(六八回)294・215

井上 彬　江口育子　沖津 律　小野洋子　齋藤節子　佐藤 薫　佐藤 勉　神保勝彦　陶山 宏　芳賀 肇　三井 薫　三井堯子　阿達俊治　阿部洋子　岡 政雄　恩田隆嗣　冠木敦子　後藤 哲　上野玲子　真島浩子　菅原豊雄　中里亮子　渡部 洋　芳賀 純　本間正吾　本間正士　田口 信　佐藤清四郎　齋藤智恵

昭和37(六九回)301・243

梅崎満洲夫　木田昭三　青木祐二　赤澤經也　阿部 亘

伊藤邦彦　大川皓司　奥山俊次　小野寺 久　木村清彦　今野彦雄　齋藤知行　佐藤桂子　鈴木 忠　武田二郎　冨樫秀夫　本間 勝　三谷仁士　森田良治　伊達克夫　鎌田清一　吉田周而　古野嵩恒　工藤雅子　鹿内竣一　小野木文子　石黒征子　中村博信　渡辺房子　小林晴夫　富樫幸彌　成田八郎　菅原守弥　本間敏英

昭和38(七〇回)301・239

上林 治　齋藤健吾　齋藤淑人　佐藤 隆　佐藤悌治　菅野信一　菅原 司　忠鉢 仁　中野捷夫　中野不二男　堀井善道　渡曾勲夫　寒河江孝允　五十嵐房夫　後藤広喜　佐々木洋雄　小林啓二　庄司 誠　太田司郎　椎名和子　土井征一郎　土岐 寛　南澤正規　富樫達雄　芳賀俊郎　加藤政五郎　丸谷俊一　丸山 鎭　富樫次男

芳賀千恵

昭和39(七一回)276・220

斎藤 進　池田 惇　金子勝男　後藤英則　酒井 康　佐藤豊久　菅 秀二　瀬尾豊喜　髙宮 宏　俵谷 育　飛塚昌宏　井上幸明　秋場祐三　小池泰弘　成瀬廣子　長堀朝也

昭和40(七二回)367・307

相澤重夫　秋山康夫　安達修一　阿部 明　五十嵐治男　石川俊正　石原 融　井上 晃　魚住芳郎　大戸眞澄　奥山輝之　河西美鈴　小関憲一　佐藤 栄　佐藤恒雄　菅原久滋　伊達由美子　手塚芳彦　奈良増恒　本間 實　渡会偵祐　伊藤賢司　加藤幸夫　加藤徹三　岩城清一　原 孝義　五十嵐静江　黒羽根洋司　成澤孝夫　斉藤輝峰　斉藤隆信　大舘敬一　中辻郁子　朝井正夫　渡会豊明　土岐紀子　土田 久　南澤美和子

昭和41(七三回)356・299

五十嵐 丕　五十嵐 勉　市川政井　伊藤恵美子　梅下清治　王 麗郷　尾形健明　奥田喜太郎　菊地善教　窪井かよ子　齋藤耕治　齋藤 彌　佐藤泰彦　髙嶋勝平　髙田京子　髙橋 晃　髙橋正良　橋 一仁　戸田幸一　永井憲雄　中川節子　長谷川俊彦　広木由美子　丸岡道子　丸山俊男　渡部藤雄　阿部 貢　橋本 暁　栗本 浩　今野俊幸　三矢千恵子　新村紀子　須田 裕　菅原京子　成沢義明　石沢耐子　中村正彦　東海林秀子　藤川一子　本間 均　上野敏郎　難波道子

昭和42(七四回)362・310

青木 博　五十嵐 妙　伊藤昭男　桂嶽みな　木戸美記子　木根淵由美　工藤儀雄　黒井秋夫　齋藤啓純　榊原史博　佐藤 潔　佐藤慎一　佐藤秀子　真田 充

新宮 進　富樫順子　本間信一　丸山真一郎　水谷つや　渡部勝彦　今村まさ子　佐々木篤夫　佐藤恵一　坂田敬一　坂本 誠　指田重治郎　秋野 裕　舌津一良　川上 隆　滝口孝志　池田徳博　竹島博樹　本間 努　齋藤宗明　冨樫俊二

昭和43(七五回)359・329

荒川節子　荒田賢二　五十嵐俊道　石向 隆　石向美栄　伊藤 篤　大川雄三　大澤繁雄　岡部次樹　小竹幸一　北風正春　工藤 勉　佐藤勘二　佐藤新太郎　塩野俊和　嶋屋司郎　進藤 仁　西村百合子　野沢 隆　播本裕子　丸田孝明　山田義昇　吉成甲子　阿部 正　五十嵐 満　佐藤久喜　佐藤孝宣　佐藤 保　山本益生　秋保 良　森 俊直　青柳明子　難波富士夫　難波幸雄　伴 和香子　平川秀紀

昭和44(七六回)344・311

安達和典　阿部和博　漆山美行　風間 寛　加藤明夫　國井英夫　國井美保　小林紀雄　斎藤繁雄　坂東清一　佐藤眞一　鈴木良春　滝口博志　立川信喜　成澤一男　西海和久　能登谷 良　藤崎言行　丸谷賢治　嶺田和朗　村田久志　八幡喜代志　渡部長和　渡会慎一　阿部正和　安田 篤　井上京子　遠藤 隆　原 啓二　佐々木 孝　斎藤清志　斎藤慶一　三浦幸雄　三浦由紀子　山崎ちか子　山本りゑ子　大川慶輝　藤本典行　難波 伸　難波信昭　保多由子

昭和45(七七回)310・291

五十嵐賢一　五十嵐俊明　伊藤 豊　梅津準士　大場敏彦　上林俊和　今野千保　斎藤雄太　坂 郁子　酒井邦興　眞田昭良　庄司秀昭　菅原誠二　菅原常彦　杉山恵子

杉山広志　高樹陽子　坪井真理　野山秀男　堀 誠　本間敬士　本間誠司　吉田芳子　渡辺眞史　阿部由紀子　加藤義弥　犬塚 貴　今井俊治　斎藤 隆　三浦與一　山田雅明　柴田善光　小山さと子　小野寺景光　森 博子　石川修一　門脇道雄

昭和46(七八回)298・278

赤松則子　板垣 馨　太田 忍　奥田 明　小林好雄　小松建男　近藤直志　斎藤英男　齋藤 豊　本間源一　本間 徹　松永庄吉　明賀徳芳　百瀬清昭　森田修一　若松伸子　伊藤るみ　魚住三江子　魚住政弘　工藤秀敏　黒澤久子　佐藤靖法　寺島久明　酒井英一　森野麗子　大川英一　田中芳昭　牧野秀夫　本間光俊

昭和47(七九回)271・248

五十嵐 勉　北風芳春　今野 実　齋藤昌志　庄司健一

ᔕᔕᔕ ご寄付、維持会費の納入 ありがとうございました。ᔕᔕᔕ

墨井豊　高山秀子　西村史　芳賀道保　渡部公一　佐藤平　山内仁紫　秋野千鶴　進藤大輔　千葉敏子　本間立　木村智　廣田信吾

昭和48（八〇回）267・244
秋庭一生　阿部浩二　阿部繁　阿部恵　石川俊志　伊藤美津子　今西敏明　榎本新也　加藤正雄　上林京子　斎藤一之　齋藤敏　坂原利恵　佐々田悠子　佐藤恒雄　佐藤正樹　菅原克也　菅原正明　須田貞夫　土岐秀昭　土岐真澄　長田俊彦　堀恵美　本間明道　安川さと子　山本建一　佐藤茂　山口朗　菅原良和　蛸井忠夫　矢口研一　矢萩光

昭和49（八一回）255・241
石川康博　大木佳子　奥山俊彰　加藤悟　佐藤文彦　佐藤政士　杉山典昭　須田まき　髙梨英勝　三木美樹　水尾良孝

阿部由利　高橋恒晴　佐藤佐喜子　佐藤利果　松森昌　村上詠子　難波貞博　富樫淑子　本間悟　野田順一　和田了

昭和50（八二回）266・251
相澤康夫　伊藤圭二　伊藤博　上野聡一郎　及川典子　岡田京子　柿崎洋　齋藤一志　斎藤宏之　中田茂　林みき　丸山久　守岡悦子　我妻寿一　伊藤与一　荒木厚　荒木陽子　佐藤利浩　小池央　大滝一　大滝多津　渡部尚登　鈴木有吾

昭和51（八三回）260・249
小野寺尚　五十嵐良克　石田吟　泉谷伸　上野雅史　川井正明　佐藤康一　佐藤雅子　佐藤守　志田美和子　菅原ゆり　福原晶子　堀奈津子　松浦正樹　山本園子　犬塚博　秋保充也　滝川義朗　齋藤圭一

昭和52（八四回）267・261
岩本洋

後藤誠　佐藤栄子　柴澤忠　菅原二三男　高坂信也　中村範明　成田伸　新田栄二　匹田久雄　平野星司　五十嵐敬郎　佐藤芳広　大和匡輔　漆山正美

昭和53（八五回）267・256
秋葉ひとみ　五十嵐順子　五十嵐透　板垣友子　葛西智江子　加藤光保　佐久間正幸　佐藤照子　白幡俊　高橋敦　仁平則行　本間正充　金内甲司　佐藤一良　志田仁美　小田郁　菅原律　大泉正　福原南津子

昭和54（八六回）267・253
五十嵐一明　五十嵐文彦　池田義広　大川聖子　工藤輝文　佐藤浩喜　城井紀男　菅原正喜　髙取千昭　土田浩和　原田浩　三浦正登　横屋一弥　佐賀井仁　佐藤健　百瀬克浩　富樫道明　平賀稲子

昭和55（八七回）262・248
今泉千代　梅木由起　遠田良弘

尾形圭一郎　荻野正彦　小松幸樹　齋藤修　斎藤智博　坂尾聡　佐藤主税　佐藤英樹　富樫亮　中西徹　本多一明　本間恵美　本間健太郎　迎田健　森内正美　渡部由美子　佐藤洋　桜井尚　相沢政男　澤田正佐子

昭和56（八八回）264・258
石川るみ子　佐藤賢　谷恵子　田村和佳　土岐肇　諸橋政人　芳村陽子　渡辺敦　宮崎哲　小池宏忠　小田淑子

昭和57（八九回）260・250
阿部哲久　大泉和弘　大坂昌子　太田弘　小野寺豊　兼子慎一郎　斎藤牧　酒井滋　佐々木春人　佐藤勝司　佐藤桂　佐藤光司　佐藤洋介　相馬功　髙坂信司　脇山拓　伊藤聡子　石川禎浩　大竹紀美恵　大塚明子

昭和58（九〇回）262・253
阿部恵子　池田由喜　尾形昌彦

片岡勝規　加藤有慶　木村充　日下部達　佐藤敏博　菅原秀記　須田覚　須藤哲也　砂田修一　長谷川聡　長谷川吉祥　本間義紀　加藤弘人　相沢こづえ

昭和59（九一回）260・254
奥山敦　木村勝義　佐藤進也　杉本ひとみ　蛸井幸　蛸井昌二　富樫正樹　成田るみ　西川博子　船見博重　本間一之　三井めぐみ　安野智穂　阿部淳二　金井昌弥　佐藤わか　佐藤佐都美　松木正和

昭和60（九二回）262・253
阿曽智也　石川敦　石川秀晴　薄衣美帆　内田巧一　加藤俊之　工藤秀生　齋藤一志　齋藤祐一　佐藤英二　白旗健　菅原一浩　中島浩子　永壽祥司　岡部恵美　五十嵐雅紀　斎藤裕子　山口幸一　村田尚志

昭和61（九三回）265・262
小松健　佐藤百合子　渋谷洋

鈴木吉也　富樫敬志　安野治　阿部智子　笹原奈津　本間緑　野口啓介

昭和62（九四回）260・257
阿部智恵子　大島信一　大滝研一郎　岡部了也　小嶋知之　後藤英実　柴田百合　白井覚　菅原治　長澤忠　本多由紀　吉田勝美　井上友美　今井申二　佐藤聡　大島香　猪口俊二　土岐彰　本間由縁　毛呂あゆみ

昭和63（九五回）264・257
石井礼仁　大川ゆき子　梶原佳絵　木山美紀　工藤聡宗　西塔晋司　樋口千佳子　遠田瑞穂　遠藤由美子　五十嵐広樹　佐藤洋　大泉仁晴

平成1（九六回）260・258
五十嵐一憲　金丸裕之　福守久子　船戸正明　村井弘幸　村山聡　横山桂　笹原泰　鈴木勉

平成2（九七回）262・261
秋山尚志　阿部修一　五十嵐有里　伊藤昌史

上林一志　北風秀明　佐藤宏明　野田精顕　疋田幸樹　宮村恵　森裕之　山本節子　荒沢正敏　佐々木律子

平成3（九八回）262・253
池田剛紀　小野栄一　佐藤英彦　佐藤拡　菅原直子　清野たえ　前田陽子　塩谷鐘子　古野伸典　佐藤和人

平成4（九九回）266・261
五十嵐郁夫　小角令　小久保明美　藤野健　後藤浩　佐藤亘　西山雄一

平成5（一〇〇回）265・260
阿部幸　阿部瑞枝　伊藤晃子　加藤輝男　黒田航　佐藤智一　佐藤英成　進藤あかね　竹田知洋　谷内未希　難波優　皆川治　山品晴美　脇浩子　五十嵐満　小林未奈子

平成6（一〇一回）266・261
池田勝人　小磯容子　佐藤知志　富樫貴

平成7（一〇二回）265・262
関口洋子　伊藤正則　上林千夏

菊地善彰　工藤順也　黒田信子　後藤真琴　齋藤裕行　佐藤清輔　佐藤道義　永森律　今野陽介　石川敦

平成8（一〇三回）255・251
野尻善之　鈴木尚美

平成9（一〇四回）241・241
飯井卓也　井上崇　上野博行　梅津昌史　粕谷宣昭　佐藤琢磨　冨樫朋子　半澤久之　本間千鶴　本間康弘　三浦芙季子　大滝吉浩

平成10（一〇五回）245・245
阿部裕　荒木康博　石黒慎　上野淳也　坂入和美　鹿戸直子　矢口豊　奥慎一郎　工藤夕佳　佐藤旬　渡部覚

平成11（一〇六回）238・234
齋藤武大　尾形寿弘　菊地教行　高橋圭　手塚一郎　難波洋史　廣原晶　真島佑介

平成12（一〇七回）234・234
石橋遼大

平成13（一〇八回）235・235
押井拓也　庄司勝己　鈴木史己　鈴木理枝

三矢正浩

平成14（一〇九回）235・234
赤松礼　工藤多寿　佐藤隆三　手塚亜紗子　吉野薫

平成15（一一〇回）235・234
池田千花　鏡雄一　門脇史紘　後藤健　鈴木望　滝口玄　東海林研　森祥子　森俊輔　森洋輔　丸山諒子

平成16（一一一回）237・236
赤松仁　大川雅人　佐藤健　志田康朗　庄司宇

平成17（一一二回）233・232
黒澤史門　佐太木淳一　須田拓郎　渡曾侑子

平成18（一一三回）234・232
上野佑基　小松一磨　佐藤瑞穂　佐藤龍勲　須田開郎　守岡太郎

平成19（一一四回）236・235
佐藤優人　城井友美　水野重邦　守岡樹生

平成20（一一五回）238・238
黒澤芽衣　鈴木祐也　橋爪希美　茂木暢人

平成21（一一六回）198・197
佐藤宇樹　城井友幸　須田雄飛

平成22（一一七回）196・196
黒澤早季　志田美穂　渡部杏太　渡辺真美

平成23（一一八回）197・196
佐藤和紀

平成24（一一九回）198・197
阿部琢磨　加藤裕樹　土井沙織　土門真緒　守岡雄朗

平成25（一二〇回）197・197
五十嵐大貴　菅京介　樋口壮弥　守屋秋沙　大和亮

平成26（一二一回）198・198
相沢みづな　阿部優佳　柿崎美由　工藤貴明　佐久間佑希　佐藤周　佐藤将　長谷川大

平成27（一二二回）198・198
五十嵐伊吹　薄衣諒　奥山泰気　長谷川凌雲　本間豪大　吉田望里

平成28（一二三回）197・196
五十嵐友彦　富樫知樹　大和翔　五十嵐愛

平成29（一二四回）195・195
阿部有紗　阿部良則　石井晴華　小松陽一郎　田中泰地　渡部文香　奥山浩気

平成30（一二五回）192・192
石川竜也　薄衣慧

加藤真悠子　長谷川久　遠藤和斗　毛呂朱里

平成31（一二六回）196・196
阿曽媛南　小松日香里　松田真由子　吉田文香

令和2（一二七回）197・197
遠藤千奈　草島怜應　佐久間未希

令和3（一二八回）191・191
北風陵汰　仁平朱音

スマホ・パソコン・各アプリより
どこでも維持会費の納入ができるようになりました。

鶴翔同窓会　検索

∽∽∽ ご寄付、維持会費の納入 ありがとうございました。∽∽∽

南高の現在

令和4年
2022

①

②

③

④

⑤

①② ／新旧の制服が…
③ ／新しい制服で入学式
④ ／創立記念式典での
歴代校歌紹介
⑤⑥⑨ ／仮設校舎
⑦⑧ ／からっぽになった校舎

⑥

⑦

⑧

⑨

編集後記

高校時代苦手な科目のひとつが現代国語でした。そんな自分でも強く印象に残っている現代文が、政治学者丸山眞男の「であることとすること」でした。ネットでみると今も高校の教科書の教材として使われているようなので、読んだことのある方も多いのかもしれません。

「権利の上に眠る者は法の保護に値しない」、「であること」に満足して「すること」を実際に行わなければその権利を失ってしまう、憲法が保障する自由・権利は「不断の努力」によって保持しなければならないなどなど、今も大きなみちしるべとなっています。

世界的なコロナ大流行、ロシアによるウクライナ侵攻はじめ緊張する国際関係、国内においては元首相銃撃事件とその後の諸問題、今後本格的に論議されるであろう憲法改正など戦後長い間経験したことのない状況が生じています。ある調査では「世界人口の71％が独裁に分類される国に住む」という結果がでているそうです。一方民主主義を標榜する国家でも、市民・有権者の自国の政治に対する満足度は必ずしも高いとはいえず、私たちには国家の意思決定を「不断」に検証することが求められているのではないでしょうか。

鶴翔同窓会だより第63号も皆様のご協力によりお届けする運びとなりました。次号が最終号となる予定です。鶴岡南高等学校の歴史を振り返る特集号になればと考えています。

菅原　ゆり

編集委員

委員長
菅原ゆり
佐藤　守
髙樹陽子
石塚俊朗
須田まき
北風秀明
佐藤英成
本間康弘